

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関ホールに「みなさんの思いにまごころを持って日々ふれあい安心して穏やかな生活づくりを目指します」とホーム理念を掲げ、共有している。ケアカンファレンスや、ユニット会議で、理念に基づいたケアの実践を確認している。	事業所の理念は会社の社是とともに、玄関ホールと共有スペースに掲示し、職員全員と利用者の目に触れ意識できるようにしている。利用者の穏やかな生活づくりを目指すため、常にケアカンファレンス等を繰り返し実践に結び付けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、地域の行事活動をおこなうことが出来なかったが、回覧板のやりとりや旬の野菜を頂いたり、自作の門松を持って来て下さったり、散歩の際に「おげんきそうですね」と気に掛けて頂いている。	事業所の前には、小さな公園やゴミステーションがあり、日常的に挨拶を交わす機会が多い。竹灯籠をお借りし利用者と楽しむ時間を作るなど、地域住民との交流には積極的に取り組んでいる。また、小須戸地域の「ひな・町屋めぐり」の情報を集め、事前に職員が写真に納め利用者に見てもらうことで気持ちを高める工夫をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話でのお問い合わせや、運営推進会議の資料をお配りする際にお伝えしている。頂戴したご意見は、ホーム運営に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、運営推進会議をホームで開催できなかったが、会議資料を戸別にお配りしたり、ご家族がホームへ来られた際にご意見を伺い、サービス向上に取り組んでいる。	運営推進会議の出席者へは、資料と次回開催などについて個別に訪問しながら説明をしている。2月からは事業所での開催予定であり、利用者・家族・地域包括支援センターの職員・地域住民・自治会長・民生委員などが参加し、意見や提案をサービスに反映できるよう実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターに運営推進会議の資料にて、当ホームの報告を行うと共に意見を伺っている。	地域包括支援センター職員には、資料を届ける際に報告や相談等を行っている。また、ケアマネ研修への参加などにより、事業所と行政との交流が図られており、双方向的な協力関係に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームの職員全員が、3ヶ月毎の委員会開催やインターネットの研修を活用して、身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束適正化委員会は3ヶ月に1回会議を開催している。研修の開催や定期的な「不適切ケアチェックシート」を記入し、日常の振り返りに活用しており改善に向けて取り組んでいる。検討課題はグループホーム部会の委員会で検討しており結果は職員へフィードバックしている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームの職員全員が、3ヶ月毎の委員会開催や不適切ケアのチェック、年2回インターネット等の研修を活用して、高齢者虐待防止について学び、自身のケアを点検している。	身体拘束同様に「イーケアラボの研修」を通して、研修報告書をまとめ提出している。それが利用者との関わりの中で活かされており、職員は自らの学びに繋がっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームの職員全員が、権利擁護について研修し、必要時に活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書を説明しご理解頂いている他、改定時の変更箇所について文書や面会時など説明しご理解頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者から発せられる言葉をきっかけに、会話を広げ、ご意見を伺うようにしている。面会時や電話、LINEやお便りなどでご家族と相談し、ご助言頂いている。	利用者との日常的な関わりの中で、意見や要望を聞くようにしており、職員の中で得た情報を共有し利用者主体の運営に結び付けている。家族には連絡しやすい環境を整え、安心して話してもらえるよう雰囲気づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	種々のアンケート調査を共有したり、研修結果をフィードバックしながら運営に関する意見を出してもらったり、毎月のユニット会議に掛けたりしている。内容を上司に伝え反映出来るように努めている。月1回の本社会議で職員の意見や要望を伝えている。	職員からの意見や提案は毎月のユニット会議等で意見を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図るよう心掛けており、一緒に話し合いながらの調整が図られている。職員の意見や要望は、月1回の本社会議の中で伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社の福利厚生についてまとめたポスター等を掲示し、働きやすい制度利用を進めている。夏季、冬季休暇(各3日)に加えて計画的に有給休暇を取得できるように職員の要望への配慮を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社では、研修支援制度や、資格取得支援制度を設け、職員のスキルアップに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋葉区のケアマネ部会に参加し、ネットワーク作りに取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面会しアセスメントを行なっている。入居後、他の入居者様との橋渡しを心掛け安心して頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面会しアセスメントを行なっている。入居後の様子について、面会時や電話で様子を伝えるなど安心して頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人ご家族の意向を伺い、関係職員も含めカンファレンスをおこない、必要なサービスが提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が得意なこと出来ることを、見守りやそっと手伝うようにしながら継続できるようにしている。家事等手伝って頂くことが多く助かっている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りや電話などで、こまめに様子をお伝えしている。受診、金品の補充、面会・電話等でご本人の要望を聴いて頂くなど協力をして頂いている。 遠慮せずに何でも言ってほしいと、暖かく支援頂いている。	毎月の「ふれあいだより」は、一人ひとりの素敵な表情と職員とのふれあう様子が伝わってくる。居室担当者のおたよりも家族へ送られており、家族とのより良い関係を築いていくための支援が継続的に実施されている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で難しい面が多かった。高齢のご親戚の方が大勢で会いに来られた時に、個人情報的にどうかと迷いがあったが、皆様のご希望もあり、ポーチでベンチに腰掛けて面会して頂いた。結果、和気藹々と過ごされ喜んで頂けた。また、入居前からのなじみの美容院を利用されている。	利用者の親戚の方が事業所に来所された際は、コロナ禍の状況とはいえ、事業所全体で配慮あるおもてなしの対応に努めるなど、利用者の継続的な交流が途絶えないよう支援している。また、馴染みの美容院からの送迎もあり、本人との信頼関係が構築されている。かけがえのない人や場とのつながりを継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に一人ひとりや2～3人、集団でと、会話やコミュニケーションのアプローチの場面の工夫を行い、ご利用者同士がお互いを尊重できるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、必要に応じて相談支援に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中で、ご利用者から発せられる言葉や表情などから、ご本人の思いに添った支援ができる様に把握に努めている。ご家族からも、情報を頂いている。	利用者の思いを把握するのに入居前は自宅に伺ったり家族からの情報を得るとともに、入居後も利用者の様子や表情などから推し量って把握するようにしている。利用者との関わりから発せられる言葉は職員共有のタブレットに入力することで情報共有し、一人ひとりの思いや意向の把握に繋げている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご本人ご家族からお話を伺い生活の様子の把握に努めている。入居されてからも、今までの生活習慣を理解し、継続に努めている。	入居前の暮らしぶり・生活歴は家族や関係者からの情報や面談での情報を統合して理解するように努めている。入居後も生活習慣が継続されて快適に暮らせるよう繰り返し検討を行い、利用者の意思を尊重した支援を大切に実行している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのご利用者が望む暮らしになるように毎日の、状態把握に努め、出来ることを行っていくように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族からお話を伺い、ホームの職員全員で、アセスメント情報を出し合い、計画作成担当者がまとめてプラン作成している。担当者会議を経て、項目毎のモニタリングを開始している。	日常生活の関わりの中で得た利用者の想いは、タブレットのケア実施チェック表に入力され、モニタリングと合わせ、家族から電話やラインにて情報をもらい、職員全員で検討している。集約された意見やアイデアは反映され、また計画案を作成し、サービス担当者会議にて現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の、モニタリングは持ち回りで、月ごとの、振り返りは、居室担当が行なっている。変化は、その都度話し合い、実践に生かしている。iPad入力し、共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者、ご家族の希望に基づき、内科・歯科の訪問診療、薬剤師の相談、訪問理美容、美容室への外出、レンタル業者との調整など対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域行事の参加は出来なかった。日々の散歩で、お地藏様をお参りしたり、地域の方と挨拶するなどの交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者、ご家族の希望に基づき、入居前からのかかりつけ医へは、ご家族の付き添いで、往診医は、ホーム職員が対応している。日々の様子や、状態変化、相談内容などをむすびあい手帳を活用して連携している。	日々の様子や状態変化、相談内容は「むすびあい手帳」を通して、かかりつけ医、往診医に情報提供されている。本人や家族が希望するかかりつけ医には、入居前からのかかりつけ医へは、家族付き添いのもとで受診してもらい、医師からの指示等を家族より報告を受け情報を共有している。協力医療機関より定期的に往診が行われ、介護情報提供書の指示内容の基で支援を行っている。また、同様にかかりつけ薬局からも定期的に服薬管理が行なわれ、服薬について職員に説明するなど、かかりつけ医、医療機関等が連携し適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回法人内の看護師による訪問で健康状態のチェックを実施している。iPadで情報共有し、助言や指示を受けている。必要時は、24時間協力体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、必要な情報を提供し、状況に応じて、地域連携室等と協力している。退院前カンファレンスで状態把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設での重度化に対応に関する指針を説明し同意を得ている。ご家族や医師、看護師、かかりつけ薬局等関係各所と連携を取るよう努めている。	入居契約時に、本人・家族等に「重度化対応に関する指針」にて説明し同意を得ている。状況や状態の変化に伴う時には本人や家族の意思や意向を随時確認し、医師、職員、かかりつけ薬局等、医療関係機関の連携が図られている。その共有認識した対応に安心されて納得した最期を迎えられる取り組みが実践されている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時に備えてフローチャートやマニュアルを整備している。看護師より実践研修を受けている。	緊急や事故発生に備えたマニュアルは整備されている。高齢者の起こりうる症状の観察ポイントや対応の仕方、緊急時の連絡網等が、昼夜問わず、発生時に慌てず対応できるようミネートされ電話コーナーに掲示されている。職員にも周知徹底がなされている。看護師による実践研修や年1回AED指導員による研修が行われ、全職員が対応できるように努めている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内で年2回避難訓練を行なっている。地域の合同防災訓練では、防災行政無線電話自動応答サービスの試験受話を行った。	年2回、消防設備業者の協力を得て、利用者も参加しての避難訓練を実施している。また、他の災害対策においても土砂災害マニュアル、ハザードマップを基に避難場所は検討されており、実際に職員が避難場所、避難経路の確認を行っている。備蓄品は災害に必要な備品等は事業所外の所定の場所に保管されており、万が一の事態に備え職員にも情報共有を図っている。また、事業所ホーム長は地域で実施される合同防災訓練に出向き訓練にも参画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや尊厳に配慮して、一人ひとりのケアを行っている。不適切ケアのチェックシートや外部評価の自己評価シートなどのツールを使用して振り返りを行なっている。	事業所職員は利用者一人ひとりを尊重し、プライバシーを損ねないような言葉かけを心がけている。排せつ支援の声掛けは周りにわからないよう小声で伝えたり、さりげなくトイレに誘うなど、本人の自尊心を大切にしながら支援している。3ヶ月に1回、不適切ケアチェックシートや外部評価の自己評価シートなどを使用し、利用者への声掛け振り返りなども行なわれ、職員全員が一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寝ていたい、家に帰りたい、外に散歩に行きたい、お風呂に入りたくない、刺身が食べたい、主人のお弁当も頼みたい、何かできる事があれば言ってほしい等ご利用者のささやかな希望をたくさん伺い実現できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせて生活出来るよう対応している。それぞれ、ご自分の好きなことをしたり、自分一人の時間を過ごされたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整えやすい居室のしつらえを工夫している。お化粧をされる方はいらっしやらないが、外出時にサングラスや、帽子、上着などその人らしいおしゃれをされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのできることを活かして、献立の相談、調理や、盛り付け配膳などを職員と一緒にこなしている。	主菜は予め月間予定表に記載されており、それを基に当日の献立は利用者からのリクエストや在庫の食材等を加味して作られる。カウンターキッチンからリビングの利用者ややり取りが行われ、調理盛り付け、配膳や準備等、一人ひとりのできることを活かし楽しみながら、職員と一緒にこなしている。近隣住民から新鮮な野菜の差し入れなどもあり、季節の旬をアイデアを出し合い調理し提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量をチェックしている。旬の食材や野菜を多く使い、ほぼ手作りで、食事が進まないご利用者にも食べやすいなじみのある献立を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれに合わせて、食後の声かけや介助を行なっている。拒否が強いご利用者に対してもっと工夫が必要である。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布の下着を使用している方が4名おられ、失敗しないように焦ってトイレに行かれるので、声かけや必要時の見守り、後始末をしている。リハビリパンツのかたも排泄のパターンをつかみ、一人ひとりに必要な援助をおこなっている。	自尊心に配慮し、在宅での生活習慣を活かした排泄を心がけている。利用者の排泄状況を把握し、紙パンツ、パットの使用時においても、トイレでの排泄を大切に、声掛け誘導、見守り、必要時援助を行っている。全職員が一人ひとりの排泄ケアに向き合い、繰り返し検討を行うことの共通認識の下で支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量に注意し、食事内容を工夫している。頂き物の野菜が豊富なので、食物繊維は自然とたくさん摂れている。必要に応じて主治医に報告・相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前浴・午後浴を設け、ゆっくり入浴して頂いている。一番湯が好きな方や、お風呂でのおしゃべりが楽しみな方、二人対応で、安全な入浴を確保している方等、一人ひとりに添った支援をしている。	一人ひとりの習慣や希望に合わせた入浴ができるよう午前浴・午後浴を設けている。一番湯が好きな利用者、お風呂でおしゃべりすることが楽しみな利用者、介護度や状態が変化のある方にも職員二人で対応するなど、安全を第一に確保し、入浴を楽しんで満足できるよう個別に配慮した支援に務めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適な眠りにつけるように室温や寝具に気をつけている。夜間眠れない方はお話を伺ったり、温かい飲み物を提供したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はご利用者のくすりの把握に努め、薬剤師に相談したり、医師に報告・相談し連携を取りながら、服薬の支援や症状の変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりになるべく活躍できる様子を気をつけてお手伝いをお願いしている。家事を好まないご利用者には、希望の献立を一緒にたてたり、挨拶の号令を掛けて頂いたりしている。散歩の付き添いやご利用者の推し活の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外に出かけたい気持ちを受け止めて、そのときに近所を散歩している。周辺をドライブするだけでも喜んで頂いている。コロナ禍で、飲食を伴う外出が出来なくなり、春の桜見と秋の県立植物園への全員での外出が楽しみになった。	一人ひとりの習慣や希望、楽しみに合わせ、近所の散歩や周辺へのドライブなど日常的な支援が行われている。また、コロナ禍のため飲食を伴う外出はできなくなったが、春の桜並木の花見や県立植物園への外出は、お茶等を持参し利用者と職員全員で出かけるなど、戸外へ出かけられるよう工夫し実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお小遣いを預かり、ホームで管理し、嗜好品や、日用品を購入支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎや掛けるための支援をしている。LINEのビデオレター等も活用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内の温度が急激に変化することがないようにしながら換気を進めている。日当たりが良く明るい空間である。季節により飾り付けを変えたり、手作りの物を職員と一緒に作って飾ったりしている。	共用の空間は明るく、廊下天井の梁は高く、木のぬくもりが感じられる。リビングは広く天井や壁面には、利用者と一緒に作成した飾りや季節感を感じられる飾りや写真が貼られている。また、地域住民の方の竹灯籠が夜間のリビングを柔らかな明かりで灯している。コロナ禍で換気を余儀なくされているが、室温が急激に変動しないよう換気に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の他、ソファーや長椅子で、気のあったご利用者同士やお一人で自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていたもの、使い慣れたものを持って来て頂いている。 居室は、ご利用者やご家族が好きなようにかざり、居心地良く過ごせるようにされている。	居室にはタンスや写真など、思い出の品々が持ち込まれており、鴨居を利用し姉妹から届けられた折り鶴が飾られた居室もあった。一人ひとりの利用者が馴染んできた在宅生活の居心地の良さを感じてもらえるよう努めている。また、家族の面会時にも洋服や椅子などの配置が変更になっているなど、家族にとっても居心地よく過ごせるよう工夫されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが出来ることを、手伝いながら自立した生活が送れるように務めている。		